



念仏者の言葉

これからが

これまでを決める



これまで頑張ってきた事やこれまでの行いが、今後に報われていく事は多々あります。同時に自らの現状やこれまでに對して意味を見いだせず、「何の為に生きているのか」と感じることもあります。過去の出来事や経験が未来に對して影響を与えているという事は確かにあります。ですが決して過去が未来を限定しているのではないと思います。九州の藤代聡磨フジノトモカズという先生は「これまでがこれからを決めるのではない。これからがこれまでを決めるのだ」とおっしゃいました。とても味わい深い表現ではないでしょうか。過去が未来を限定しているのではなく、これから(未来)によってこれまで(過去)の持つ「意味」が決まってくるという事です。私たちの現状や過去を変える事は出来ませんし、過去の選択を悔やんでも変える事も出来ません。しかし全てが自分にとって無駄ではなく、必要な事だったと引き受けていく事が出来ればどれだけ幸せでしょうか。さらに言えば仏さまの教えに出遇あつてみれば、これまでの全ての出来事が仏さま(真実のはたらき)に出遇あう為のかけがえのない大切なご縁だったと意味付けられてきます。老いも病も別れにも意味があります。悔やんでいる出来事や思い通りにならない現実にも無意味なものはなく、その意味は実はこれからが決めるのです。

誌上法話〜NGワード〜



浄土真宗の葬儀では基本的に使わない言葉があります。例えば「安らかに眠りください」「ご冥福を祈ります」などは使えません。しかし葬儀を勤めますと大概はこれらの言葉を耳にします。皆さんも何気なく使用しているのではないのでしょうか。私はこれらの言葉を否定しているではありません。人情という立場で見れば慰めの言葉としては大事だと思えます。しかし仏教的な立場、特に私たちの浄土真宗という立場で見ると、教義とは異なる言葉になりますので使用しません。では何故「安らかに眠りください」という言葉は用いないのでしょうか。それは亡き人は仏さまとしての大切なお仕事があるので、ゆっくりと眠っている訳にはいかないからです。亡き人の仏さまとしての仕事とは、残された方々を救う事です。救うとは正しい道へ導いていくことです。私たちは自分の思いや分別、勝手な良し悪しによって、自分の望む条件でしか自分の人生を受け取る事ができません。そして自分の望む条件（都合）でしか物事の良し悪しを見る事が出来ません。しかしそんな思いとは関係なく、全ての現実を思いを超えたご縁によって起こります。その結果、「こんなはずじゃなかった」と、せつかくの人生が虚しく終わってしまいます。そんな私たちに対して亡き人は仏さ

まとして全てのご縁を通して、あなたの都合ではなく「ものの道理を知って」、ありのままを頂いていくようにはたらきかけて下さっています。ですから悠長にゆつくりと眠っている暇はないのです。寧ろ眠っているのはもの道理を知らない私たちの方です。

そして「ご冥福を祈る」とは、死後の幸せを祈るという事です。慰めの言葉としては良いですが、これでは生前と亡くなられた後の区別がついていません。葬儀という場は死という現実を通して、仏さまとしての最初のお仕事をされる場です。死に対して他人事で無頓着な私たちに対して、自らの死を通して「諸行無常」と、必ず死すべき身を生きている事を教える厳粛な場です。私たちが亡き人の死後を心配するのではなく、どこまでも亡き人からとても心配されているんです。大切な事はいずれにしても、私たちはどこまでも教えを受けていく立場だという事です。浄土真宗が「他力の仏教」と言われるのもそこです。「天国から見守って下さい」という言葉もよく聞きますが、亡き人へ向けての言葉としては、「お浄土からお導き下さい」という事が適切ではないかと思えます。



報恩講・御正忌のご案内



今年も報恩講・御正忌ごしょう忌の季節になりました。宗祖親鸞聖人の遺徳を偲ぶ大切な仏事です。

昨年までの二年間は新型コロナウイルスの影響で午前のみの勤修で、お斎くわい(食事)の提供は自粛していましたが、今年是一部午後も勤修し、感染対策を行いながら形態を変えてお斎くわいの提供を行う予定です。

●報恩講 十月十七日(月)

午前十時～(お勤め・法話)
午後一時～(お勤め・法話)
法話は当寺の副住職が行います。

●親鸞聖人御正忌 十一月二十八日(月)

午前九時半～(お勤め・法話)
詳細は改めてご門徒の方に案内いたします。

夏のお寺の風景



お盆前のお寺の墓掃除



金沢からの団体参拝(四十名)



アメリカ人の友人を招いての国際交流イベント



祠堂経会の法話(野田博俊師)



暁天講座(小塚弘道師)



聖徳太子像の法衣虫干し(お盆)

この寺報「願生」は最近のバックナンバーを含めて、お寺のホームページでもご覧になれます。

坊守日記



十月になり少し涼しくなりましたが、皆さん毎日いかがお過ごしでしょうか。東本願寺出版から発行されている『同朋』という月刊誌の九月号に、お寺で運営している『テンプル英語スクール』の記事が掲載されました。富山に来て十数年が経ちましたが、最初は知り合いも誰もいない状態からのスタートでした。塾を始めからは五年程経ちましたが、私の活動に賛同して下さるお母さん方がチラシを配ってくれたり、本当に色々な方に助けて貰いながら、最近やつと形になってきたという所です。お寺という環境が安心出来て小学校からも近く、そのまま通える英語教室という点が良いようです。お迎えまで絵本を読んだり、お寺の境内で遊んだり、他の英語教室と差別化を図ってきました。その中で参考にしたのが、江戸時代の寺子屋です。これからは先人の知恵を現代的に変えながら、寺子屋を続けて行きたいと思います。



編集後記



今年の夏も例年通りに暑い毎日でしたが、皆さんはいかが過ごされましたか。私たちは世の中が特に制限もなくウィズコロナへと舵を切って行っている事もあり、約三年ぶりに妻の実家である九州へ一緒に里帰りに行ってきました。コロナ禍に入ってから遠方への旅行にはほとんど行くことができなかったので、長い道中を含めて楽しさは格別でした。九州の皆さんとは約三年ぶりに会いましたので、娘の成長にとっても驚き、お互いに再開を喜びました。改めて三年の月日の経過を感じます。改めて行きたいところへ行き、会いたい人に会えるということのありがたさというものを感じましたし、あたりまえの事が実はとてもありがたいのだと深く実感させられた九州への旅でした。



真宗大谷派
親鸞聖人聖跡
三本柿の寺

辻徳法寺

〒938-0031

富山県黒部市三日市3214

TEL・FAX(0765) 52-0791

ホームページアドレス

<https://tokuhoji.net>

[@temple_english_tokuhoji](https://www.instagram.com/temple_english_tokuhoji)



次回の定例法座の予定は12月10日(土)13時半～です
10、11月は報恩講、御正忌の行事があるのでお休みします